
とある界放の戦闘精神《バトルスピリッツ》

セイワ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

バトルスピリッツ
とある界放の戦闘精神

【Nコード】

N4818Y

【作者名】

セイワ

【あらすじ】

とある世界を救った少年と、とある世界で今現在進行中の不幸な少年が出会うとき、新たな物語が始まる。

予告（前書き）

まだ終わっていない小説があるのに、書きたいという衝動が押されなくて書きました。まずは予告です。

予告

上条 当麻は相変わらず自分の不幸を呪わずに過ごしていた。だがある日彼はある少年が倒れているのを発見する。その少年は「激突王」または「ブレイヴ使い」と呼ばれていた馬神 弾だった。この世界では科学の力でバトルフィールドが作られて当麻と弾はそのテストに付き合わされたのだった。スピリットを呼べ！、マジックとネクサスで有利に進めろ！、ブレイヴで合体！。そしてバーストで逆転の一手を決めろ！！

「その幻想をぶち壊す！！」「撃て！、ブレイヴスピリット！！」この小説は一話完結します。しかしもしこの続きが見たいというならもしかしたら連載するかもしれません。

予告（後書き）

いかかでしょうか？、とあるシリーズは9月下旬、バトルスピリッツはブレイヴが終わった所から始める予定です。本文にも書きましたがこの小説は一話完結です。しかしもし続きが読みたいという声だったらもしかしたら連載するかもしれません。その所はよろしくお願いします。

前編（前書き）

どうもセイワです。今回の話は彼らとのファーストコンタクトです。それではどうぞ…

前編

「はあああ…、不幸だあ…」

よく晴れた日、秋の真昼間を休日を楽しむであろうこの日であるが、この少年、上条^{かみじょう} 当麻^{とうま}は浮かない顔をしながら歩いていた。そのわけは…

「買い物しようとしたら財布は落とすわ、拾ったと思ったらどこかの不良さん達にぶつかってかつあげさせそうになるわ、大勢で囲まれて逃げていたら階段を踏み外し転げ落ちるは…、今日はいつもよりも不幸だな…」

ほかの人から言わせれば「どんな不幸なんだ!？」と言っているが彼自身はそんな不幸を呪わずにすごしているのだ。とそんな風に言っている彼の居る場所は学園都市。科学が発達（ここだけ未来見たい感じ）し超能力が開発されている所である。当麻もその1人であるが…、まあこの小説ではその能力は発揮しないであろう（作者いわく）。

「まあ、財布は無事だしなあ…」

そう言いながら財布の中身を確認のために中を開ける、その時、

「ぐおふえ！？」

何かを踏む音と奇声が聞こえたのだ。それを確認のために足元をみると、赤い髪をし、服は赤を基本とした少年が足元にいたのだ。しかしその目は白目をむいていて当麻は自分の足を見たら…、ちょうど男の急所の所であった。

「あ、あの…、すいませんでした…」

当麻はすかさず足をどけて踏みつけた少年に謝るがその後に気絶をする少年であった。

「ちょ、ちょっと！。ああ、もう不幸だあああああああああああああ
ああ！！」

その光景を見て空を見上げて叫ぶ当麻であった…

それから数時間後…

「う、うう…」

そう言いながら当麻が間違って男の急所を踏みつけられた少年は目を開ける。そこに映っていたのは…

「……は…」

自分が知っている所とは知らない場所に驚く少年で、さらに自分は今ベットの上で寝て居て起きてあたりを見渡すと、

「気がついたようだね？」

そう言って少年は声の方を見ると、

「…カエル？」

「初対面な人に向かって本人の気にしていることを言うのは失礼とは思わないのかな？」

「すみません…、で、あなたは…？」

「私のことは冥土帰し《ヘヴンキャンセラー》と呼ぶといいね？」

「冥土帰し《ヘヴンキャンセラー》？」

少年は椅子に座っていた人物の顔を見て蛙だと思ったのだが、違っていたらしく少年は謝るとカエル顔の初老の男性は自分のことを冥土帰し（ヘヴンキャンセラー）と名乗ったのだ。

「全く上条君が来たと思ったたら見たこともない人が担ぎ込まれて「男の勲章をつぶしたああ」とか言っていたから見たら何ともないから一応様子を見たんがね？」

「はあ…」

「まあ君はなぜ倒れていたのは何であれ見過ごすことはできなかったのだろうね？。それが医者ってことね？」

冥土帰しの言葉を聞いていた少年は先ほど自分の大切な場所に何か衝撃が伝わって気絶をしたことを思い出したのだ。その上条という人は自分のやったことを反省して自分をここに運んだこととそれを見てくれた目の前にいる医者に感謝したのだ。そして、

「ありがとうございます。で、聞きたいことがあるんですが…」

「何だね？」

「ここはどこなんですか？」

少年が聞きたかったことを目の前にいる医者、冥土帰しに聞いたの

だ。

そう会話すること数十分後…

「ふうむ…、グラン・ロロに異界王、それに未来世界に魔族と来たね？。もしかすると…」

「どうしたんですか？」

冥土帰しからここは学園都市だと聞いた少年は次に自分の体験したことを話をした。まあ冥土帰しにそんな事を聞いたせいでいう雰囲気になってしまったが。それを聞いた冥土帰しは自分の仮説を言ったのだ。

「君はもしかしたら別の世界の人間なのかもしれないね？」

「それはどういう事ですか？」

「私の記憶ではそんなことが起きたと記憶はない。それに君だって学園都市って聞き覚えがないという。つまり君はある出来事から君の居た世界から、いま私たちがいる世界に飛ばされたことになる。そんな出来事が君には心当たりはあるのかね？」

少年は冥土歸しの仮説を聞きながらその原因となったことを考え、そして思った。そう神々の砲台の引き金を引いた時に飛ばされたのだ。

「まあ、生きていれば儲けもんということだがね、君は運がいいね？」

「運がいい…ですか？」

「そうね？、私が知っている中でよく怪我をする少年がいるけど彼よりましね？」

「すかさず上条さんをバカにするのはよくありませんよ」

冥土歸しとの会話をしていた少年にふと別の声は聞こえたのだ。その声を見るとそこにいたのは…、

「おお、上条君ね？、いついたんだね？」

「誰もが思っている先生の顔を彼が言った所ですね」

「ほぼ最初からですね…」

少年をここに運んだ恩人にしてその原因を作った犯人の当麻が立っていたのだ。しかも最初からいたようである…。

「まあ上条さんが言うのもなんですが、君も運が悪いですね。けど…、それにくよくよするのはよくないな。まあしばらくここにいた方がいいかもしれないし…、それにお前バトスピをやっているそうじゃないでせうすか？」

「それがどうしたんだ？」

「そこから先は俺が説明するだぜい」

当麻は意味深な事を言ったので少年はそれを聞こうとしたら新たに入ってきた金髪にサングラスをかけた少年が言ったのだ。

「あんたは？」

「俺の名は土御門^{つちみかど} 元春^{もとはる}。そこにいる上条 当麻の同級生にやー。
ま、そんなこ

より、ここが科学で発達したって聞いたよな？」

「ああ」

「その技術を使ってある発明がしたんだ。それがお前が話をしていたバトルフィールドだ」

「何！？」

少年は元春が言ったことが疑った。未来世界で実用化されたバトル

フィールドを自分たちが生きている現代に完成したのだ。いくら技術が発達したとはいえそこまでできるのかと考え、

「で、ここで取引なんだが、バトルフィールドが出来たがそのテストはしてない。そのテストに付き合わないのか？」

「…見返りは？」

「ここでの生活圏。もし断ればここから追い出すつもりだが？」

元春の取引に考える少年。しかし彼の答えは…、

「分かった。そのテストをやる。で、その対戦相手は？」

「俺の隣にいるやつにやー」

「……って俺じゃないでせうすか!？」

それに応じる少年であったが、彼の対戦相手を聞こうとしたら、なんと当麻に指定したのだ。それに困惑する当麻に、

「仕方がないにやー。誰かさんのせいで彼をここに連れて来たのだ誰だったかにやー？」

「…ほかならぬ上条さんです」

「その責任を取るのが筋つてもんだぜい」

「…、ああ、もう分かりました。やればいいでしょ！？。ああ今日はとことん不幸だ！！」

だが元春にその責任を取れと言われて観念した当麻であった。

「…そういえばお前の名前はなんていうんでせうすか？」

「そういえばそうだにゃー」

「それは私も聴きかったね？」

上から当麻、元春、冥土帰りの順に言われて彼は言った。

「弾、馬神 弾だ」

と。

前編（後書き）

どうでしょうか？。次回はいよいよバトルフィールドによるバトルです。当麻のデッキは一応考えているんですが。どんなデッキは皆さんで考えて待ってください。それではまた…。

次回は来週になる予定です。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4818y/>

とある界放の戦闘精神《バトルスピリッツ》

2011年11月20日07時22分発行